

8 節 原典の権威と翻訳聖書の有効性

8 - (昔の神の民の国語であった)ヘブライ語の旧約聖書と、書かれた当時、最も広く諸国民に知られていた)ギリシャ語の新約聖書は、神の直接的な靈感を受けていて、神の直接的な配慮と摂理により、あらゆる時代をとおして、純粹に保たれたので、真正で権威がある。

「まことにあなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。」 改

マタイの福音書 5・18

「厳格に言うと原本こそ靈感を受けた唯一の聖書であるが、実際にはそれは一冊も存在していない。新約聖書についても、現在の最古のものは 325 年頃のもののみられている手写し本であって、写し違いがかなりある。しかし、学者たちは数千の写本の比較研究の結果、今日、大体千分の八位までに疑問の句を減少させている。」《解説》

8 - 教会は、すべての宗教上の論争において、最終的にはこれら[原語]の旧・新約聖書に訴えるべきである。

「おしえとあかしに尋ねなければならない。もし、このことばに従って語らなければ、その人には夜明けがない。」 改

イザヤ書 8・20

「おしえとあかし」 神の啓示《脚注》

「預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。」 共

使徒言行録 15・15

エルサレムの使徒会議において、ユダヤ主義者から異邦人にもモーセの律法と割礼を遵守させるべきだという意見が出される。それに対して、ヤコブが旧約聖書アモス書 9・11,12 を引用して、異邦人に必要以上の重荷を負わせてはいけないと説得する。

「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しするものだ。……あなたたちはモーセを信じたのであれば、私をも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いてあるからだ。」 共

ヨハネによる福音書 5・39,46

「モーセは律法によって罪を示すことで、罪の赦しを得させる贖い主イエス・キリストのために道を備えた。」《脚注》

聖書の学術的研究では、原典によるべきことを言っている。

「教義の論争や注釈上の問題を確定するには、どうしてもこのような厳正な校正を経た原典によらなければならない。」《解説》

8 - しかし、これらの原語は、聖書に近づく権利と関心を持ち、神を畏れ

つつ、聖書を読み調べるように命じられている神の民すべてに知られているわけでないから、聖書はその接するいずれの国民の言葉にも翻訳されるべきである。

「だから兄弟たち、わたしがあなたがたのところに行って異言を語ったとしても、啓示か知識か預言か教えかによって語らなければ、あなたがたに何の役に立つでしょう。……あなたがたも異言で語って、明確な言葉を口にしなければ、何を話しているか、どうして分かってもらえましょう。空に向って語ることになるからです。」 共

コリントの信徒への手紙 ー 14・6,9

「だから、もしその言葉の意味が分からないとなれば、話し手にとってわたしは外国人であり、わたしにとってその話し手も外国人であることとなります。あなたがたの場合も同じで、靈的な賜物を熱心に求めているのですから、教会を造り上げるために、それをますます豊かに受けるように求めなさい。」 共

コリントの信徒への手紙 ー 14・11,12

「しかし、もしみなが預言するなら、信者でない者や初心の者が入って来たとき、その人はみなの方によって罪を示されます。」 改

コリント人への手紙 第一 14・24

「だれも理解できることばで福音を語るなら、未信者は罪を示され、悔い改める機会が与えられる。」《脚注》

「異言を語る者がいれば、二人かせいぜい三人が順番に語り、一人に解釈させなさい。解釈する者がいなければ、教会では黙っていて、自分自身と神に対して

語りなさい。」 共

コリントの信徒への手紙 一 14・28,29

「異言」をどう解釈するか。《辞典》によると、ギリシャ語でグローサイの訳として使われているということで、使徒2・4¹すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国の言葉で話し出した。」

ここで使われている「他国の言葉」も、原語はグローサイの訳として使用されているので、「外国語」と理解したい。

- 8 - **聖書があらゆる国の言葉に翻訳されると、神の言葉があらゆる人に豊かに宿り、彼らが御心にかなった方法で神を礼拝するようになる。**

「キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向って歌いなさい。」 改

コロサイ人への手紙 3・16

- 8 - **また、聖書の翻訳は、あらゆる国民に、聖書の与える忍耐と慰めによって希望を持つことができるようにする。**

「かって書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができます。」 共

この8節は、「原典の権威と訳本の有効性とを主張している」《解説》。また、「『信仰告白』が書かれた17世紀の歴史的状況が背景にあり、その当時のローマ・カトリック教会は、ラテン語訳聖書を究極的権威あるテキストとして受け入れていた。当時のカトリックに対して、宗教改革者たちは、ヘブライ語旧約聖書とギリシャ語新約聖書を原典とし、これを各国語に訳して誰にでも読めるようにすることが大切だと考えた。しかしカトリックも「第二ヴァチカン公会議(1962 - 1965)以降、あらゆる国民の普通の言語に聖書を翻訳するという原理を受け入れた」《註解》。